



2020年8月31日発行

バックナンバーは <http://karadakan.jp> で読みいただけます。

慶應義塾大学 先端生命科学研究所

からだ館

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1
鶴岡タウンキャンパス 致道ライブラリー内
TEL 0235-29-0806
FAX 0235-29-0807

院長リレー
インタビュー
第二回

ともに考えよう

地域医療みらい図

自分のために 未来のために

前回から始まった「ともに考えよう」地域医療みらい図 院長リレーインタビュー」では私たちが暮らす地域の医療の現状について学んでいきます。毎回、地域の各病院の院長より病院の紹介、地域医療の在り方等についてお話を伺います。今回は鶴岡協立病院、堀内隆三院長にお聞きしました。

― 鶴岡協立病院の役割を教えてください。

(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。

医療生協やまがたには、鶴岡協立病院と鶴岡リハビリ病院、クリニック、そして介護施設があります。全体として保健予防活動からリハビリ、医療介護を提供するのが私たち医療生協です。

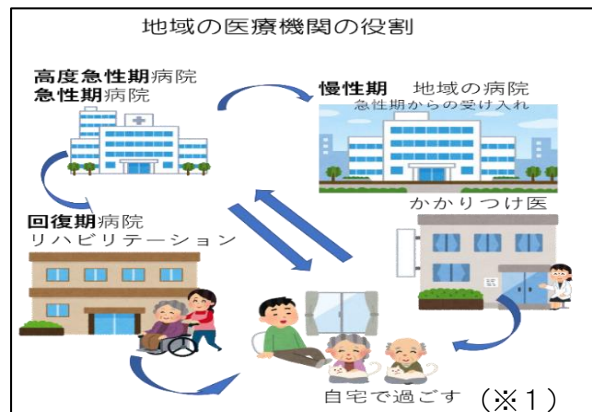
地域包括ケアの拠点として

(堀内) 例えば地域に暮らす高齢者が病気になる、私たちの病院を訪れたとします。病状によっては、荘内病院に紹介し、そこで高度急性期医療を受けていただくこともあります。多くは、私たちの病院で急性期治療を終え、その後、ご自宅等に戻り、通所リハビリ、通所介護のサービス等を利用しながら、在宅で過ごす。この一連の地域包括ケアシステム(※2)をまとめる拠点が鶴岡協立病院の立ち位置です。

また、私たちの役割は社会的弱者にとつて最後の砦となる医療機関であることで、無料定額診療にも取り組んでいます。差額ベッド代金もとりません。もつといい部屋にしてほしいといわれても特別な部屋はありませんが、個室であろつが大部屋であろつが同じです。

支えあいの精神が我々の魂

(堀内) ここは、医療生協という組織でみんなが出資して建てた病院です。会員は4万人おります。支部があつて班ごとに活動しています。そこには組合員さん同士が話をしたり、運動をしたりする居場所つくり活動も行っています。組合員さんのなかには自発的に気になる人を連れ出して世話をしてくれる人もいます。支えあいの精神がそこにあるのです。それが我々の魂です。支えあいの精神の上に医療があると思っています。そこが私たちの病院としての特色であり、強みです。



地域医療マメ知識

区分	医療機能の内容(定義)
高度急性期	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能
急性期	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期	・急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 ・特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL(日常生活動作)の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション機能)
慢性期	・長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ・長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

出展：山形県HP「医療機能について」より

(※2) 地域包括ケアシステムとは高齢者を支えるサービスを地域で一体的に提供するシステムのこと。地域に住む高齢者が、その地域で自分らしい生活を最期まで持続していくために、介護や医療、さらには住まいや生活支援の提供をする。
出展：厚生労働省HP「地域包括ケアシステム」より



6月30日、協立病院にて。聞き手は、左手より、瀬尾利加子1)、齊藤彩2)、(株) 瀬尾医療連携事務所 2) 慶應義塾大学からだ館

※インタビューは6月30日に行いました。

次ページに続く

Ⅰ 庄内の地域医療で課題と感じていることは何ですか？

(堀内) この地域の看護師と医師の不足です。病院の医師の確保も考えていきますが、深刻なのは看護師不足です。

鶴岡協立病院でも昨年からどうしても看護師が集まらず今年はベッド数を33床減らしました。以前は230床あったベッド数は今では140床です。どんどん規模を縮小しても、それを維持するのが難しくなっている現状です。また看護師不足が直接の原因ではありませんが、地域には「病院」をやる「クリニック」に移行した医療機関もあります。そのため、慢性期の患者さんが入院できるベッド数はさらに減少しています。高齢者の多いこの地域にとって本当に深刻な問題です。

実は山形県の看護師の養成数は全国でもダントツに低いのです。

庄内地域には酒田市立酒田看護専門学校、鶴岡市立庄内看護専門学校があります。が、残念ながら定員割れを起している状態です。さらに医師会立の准看護学校も3年後の閉鎖が検討されています。教育の問題も併せて考えていかないといいけません。

Ⅰ 庄内の将来のため考えていることがありましたら教えてください。

(堀内) 地域に看護大学を作ることが私の願いです。

庄内地域には、より専門性の高い大学、看護大学を求めて、他県や内陸へ進学している優秀な学生も多いです。そこで地域に看護の大学を作りその学生を庄内地域で養成できないかと考えています。

堀内院長のプロフィール

私は長野県出身で、実家は父が中学の教師、母が農家をしていました。3人兄弟の末っ子です。

私が医師を目指したきっかけは2つあります。一つは姉が医療系の大学に進んだこと。もう一つは長野県で地域医療の先駆者として活動されていた故若月俊一先生に感銘を受けたことです。自分も無医村の医師になりたいと思いました。

大学は山形大学医学部です。卒業後は若月先生のいる佐久総合病院に行くか山形に残るか悩みました。しかしより医療体制が整っていない山形で医療をしていくことに決めました。ちょうどその頃、地域住民がお金を出して



堀内先生の故郷 長野県青木村の風景

つくる協立病院のことを知りました。そこでこの病院を大きくしたいと考え入局したのです。

コロナ禍から 本当の幸福を問い直す

私は、このコロナ禍を境に、人間の幸福感が変わっていくことを望んでいます。今までの幸福感はお金に支配された価値観が中心でしたよね。他との比較の中に幸福を探していた。しかしそうじゃなくて、人々が他人との支えあいの中に幸福を感じるような価値観を転換してほしいと考えています。都会崇拝ではなく、地方に目を向けること。地方にいても仕事はできるのがわかってきましたよね。もう一度、地方に社会を形成し、幸せづくりをみんながやっていければいいのではないのでしょうか。

良い看護大学があれば、周辺の地域や隣県からも高度な看護を学ぶため、学生が庄内に通学するかもしれません。人口減少、出生率も減っている現状では大学の設立は難しいことは十分認識しています。しかし何も手を打たなければ庄内の医療はどうなるのか。医療と教育はセットです。どちらもなくなったらその地域は立ち行かなくなってしまうです。なんとしてもチャレンジしたいです。

地域で支えあう医療体制に

(堀内) もうひとつは、地域の医療体制をそれぞれの役割・ポジショニングを鮮明にし、地域全体で支え合うシステムをつくっていきたく考えています。私たちの病院の果たすべき役割は、地域包括ケアです。これに専念することで地域に貢献できればと考えています。

(堀内) 実は、神戸と庄内が、生協組織の発祥の地です。学校給食も鶴岡が発端の地です。庄内は伝統的に支えあいの精神、感動するべき歴史がある地域です。地域で支えあいを大事にして他の病院と連携していくことで素晴らしい地域医療ができると考えています。

あとがき
インタビュアーの秋山さんは、東京からオンラインで参加しました。堀内隆三先生ありがとうございました。次回もどうぞお楽しみに



聞き手のプロフィール

齊藤 彩 からだ館スタッフ、社会福祉士。 院長インタビューを通じて地域医療体制の情報を発信し、ここで暮らす皆で医療のことを考えていきたいと考えている。

瀬尾 利加子 (株)瀬尾医療連携事務所代表、鶴岡市地域医療を考える委員会委員長。2015年まで鶴岡市内の病院に勤務後、高齢社会から起こる医療課題の解決策に取り組むため起業。みどりまち文庫を運営。

秋山 美紀 からだ館リーダー 慶應義塾大学教授 鶴岡市地域医療を考える市民委員会コーディネーター 中央社会保険医療協議会公益委員等。約15年にわたり庄内地域の医療をウォッチする傍ら、国の医療政策にも関わる。

院長リレーインタビュー記事はからだ館ホームページよりご覧いただけます。



からだ館×地域連携プロジェクト×社会人大学院生の合同企画

「やてみねが オンライン」

オンラインで人と繋がり、生きがいや喜びを体験。
地域を元気にしていこう!

からだ館が2009年から運営しているがん患者サロンにこここ倶楽部。毎月1回第一金曜日に開催していましたが2020年3月、4月、5月、はコロナ禍でサロンが中止となり、不安を抱いていた参加者もいらっしゃいました。そこでその状況をなんとか解決できないかと考えた慶應義塾大学先端生命科学研究所の地域連携プロジェクトと社会人大学院生*が立ち上がり、からだ館の患者サロンをオンラインでサポートする合同の活動を行いました。

* 社会人大学院生は企業から派遣されて鶴岡に移住し、慶應義塾大学先端生命科学研究所で大学院生として学びながら、鶴岡や庄内地域をフィールドに様々な研究活動をしています。

～6月5日～説明会

会 場： 鶴岡タウンキャンパス
参加者： 9名(うち見学者2名)
社会人大学院生：4名



参加者ひとり一人に合わせた操作方法を検討。大学院生の紹介動画を視聴する宿題も出されました



参加者の声

- 楽しみで次回が待ち遠しい
- 活用できれば便利。高齢者、障害者こそオンラインを学んだ方がいいと感じた。
- 今日は見学だけと思っていたけどみんなの楽しそうな様子を見て自分もやってみたいと感じた。

～7月3日～オンライン体験

夕方のテレビ番組で今回の様子が放映。それを見たお孫さんから「おばあちゃん、すごい!」と称賛された参加者もいらっしゃいました。



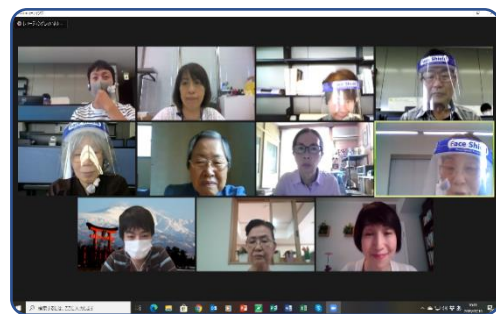
～7月7、8日～ 接続テスト

ご自宅のパソコンから参加される方へ事前にテスト。
不具合や不安な点を解消して本番に備えました。

～7月10日～ オンライン患者サロン開催

会 場： 鶴岡タウンキャンパス
庄内地域各ご自宅
東京の秋山リーダー宅
参加者：7名
社会人大学院生：6名

本番の当日。自宅からの参加者3名、鶴岡タウンキャンパスから4名と社会人大学院生、からだ館スタッフ計11名のオンラインが開通。長く会えずにいた、からだ館リーダー秋山さんのいる東京と、鶴岡市、酒田市で顔を合わせることができました。



参加者の声

- 今悩んでいるがんの仲間と繋がりたいので、今後もオンラインを活用していきたい。
- 参加者について、みんなたいしたものだと感じた。自分より年上の人もちょうどできている。まずはあの場に参加すること自体が素晴らしいと思う。
- 自分の世界が広がった。世界に向けて色々なことができると思うとうれしい。
- 苦手意識があったが一度体験できたので、次にやるときの抵抗感はなくなった。
- 若い人とのコミュニケーションに引け目を感じていたが、丁寧に教えて頂いてとても嬉しかった。

社会人大学院生の声

- 参加者がとても意欲的で刺激を受けた。地域のために何ができるか個人で考えていたが組織として取り組むことにより幅が広がる。
- 最新のことにチャレンジする歳の重ね方をしていきたい。
- 特別なことをしたわけではないのにこんなに喜んでもらえるとは思わなかった。喜んでもらえてうれしい。
- 2回目で、早くもオンラインに慣れてきている様子に感心した。

今回のメンバーは、
高木慶太／損保ジャパン 木村剛徳／第一生命
舘野弘樹／第一生命 三島拓也／明治安田生命
前橋和毅／損保ジャパン 重森圭太／損保ジャパン

ことの葉 project

「からだ館」が開催しているがん患者サロン「ここに倶楽部」の中で、つらい時期にいる参加者が他の参加者の言葉に励まされて笑顔を取り戻したり、元気になる様子を見れば目にあたりになります。

そのことをきっかけに、人を前向きにする言葉を紹介したいと考えた企画が「ことの葉project」です。

がん患者サロンの参加者を中心に、生きる力をもらった言葉、大切になっている言葉などを集め、その中から22の「言葉」を選び、ポストカードを作りました。

8月18日には、ポストカード完成発表会を開催しました。

参加者の声

- ・その時その時で自分の状況に当てはまるはがきを自分に送ってみたい。
- ・一枚のカードが今まで気が付かなかった世界を教えてくれる感じがする。
- ・コロナで大変な時期だが新しい世界が必ずあるはずだ。このカードには自分の人生をよりよく生きるエッセンスが詰まっている。
- ・まだ紹介したい言葉がたくさんある。第2弾をしていきましょう。「言葉」を送り合いみんなで共有していきたい。

からだ館では、こんな時だからこそ、前向きになる言葉の発信で、人と地域を元気にしていきたいと考えています。



ポストカードはからだ館のホームページでご覧いただき、ダウンロードもできます。



ポストカードは、からだ館(致道ライブラリー内)に展示をしています。

簡単なアンケートにお答えいただくと、好きなカードお一人3枚までお持ち帰りできます。(各カード30枚限定)是非からだ館にいらしてください!

ここに倶楽部



がんを経験された方・そのご家族が、経験・想いを分かち合うサロン

～*～* 8月 参加者の話題より *～*～

- ・ 転移したが信頼できる医療者がいてくれる。これから相談しながら治療していきたい。
- ・ 定期健診で腫瘍マーカーが上がった。心配でたまらない。
- ・ 病後は鬱になったが、みんなに助けられて鬱を抜けられた。現在は「今を生きる」だけを考え生きている。
- ・ 夫をがんで亡くしつらい気持ちを伝えてきたが、ここでみんなの話を聞いて心が救われた。



参加者から頂いた作品。癒されます (心)

今後の開催日 9/4 10/2 11/6 12/4
(毎月1回第一金曜日開催)

時間 10:00～11:00
会場 鶴岡タウンキャンパス 3階
会費 お一人 100円
※おつりのないようにご準備ください。

～*～* お願い *～*～

- ◆ 各自飲みものをご持参ください
 - ◆ マスクを着用してご参加ください。
 - ★ 状況が変化した場合は、開催変更の可能性あります。ご不明な点やお問い合わせは「からだ館」まで
- 電話番号 0235-29-0806

編集後記

コロナウイルス感染予防のため、3月、4月、5月から館の活動のほとんどがストップしました。その後状況に応じて、いままでとはやり方を変えながら活動を再開させてきました。その時改めて気が付いたのが、人と人が関わりを持つことがどれだけ重要かということ。からだ館の活動は参加してくださる皆さんがいてこそなんだという、当たり前のことが、とても意味を持つのだと知ることができました。